

オセロ中島 休業！を壊した井上陽水との

驚愕 スcoop

「ドロ沼不倫」

& ナゾの女霊能者



強い結婚願望、そこに

福山雅治の内妻」を自称する女が...

相方・松嶋はオメテタ

福山雅治

エキゾチックな顔が好き？

陽水「今日の番組で言いたいことのひとつは、中島さんが白黒ハッキリつけたがる傾向があるんじゃないかとね」

中島「オセロですからね（ため息をついて、頬杖をつく）」

「私は、年上の人ほど人格ができていると、ずっと思っていたんですけど、ズッとリリー「そういう性格では息がゼーゼーしてしまますよ、とオレと先輩（陽水）で心配してるんですよ。グレーの部分を大切にしましょうよ、ということをね」中島「グレーの部分ばかり

人気お笑いコンビ・オセロの明暗が分かれている。三年前に結婚した、白い方。の松嶋尚美（39）は、この四月に妊娠したことを発表。安定期に入った今は、芸能活動に復帰、テレビなどで元気な姿を見せている。一方、かつては「司会も出来る美人お笑い芸人」として引張りだだった、黒い方、中島知子（39）の姿を見ることはない。近年、激太り、が話題になっていったが、四月、体調不良による無期限休養を発表した。

しかし、中島の「休業」には隠された事情があるという。中島の古くからの知人が嘆く。

「本当の理由は、体調不良じゃありません。知子さんは五、六年前から、悪質な女霊能者に引っかけられてしまったのです。」

その霊能者は四十四歳のIという女性。知子さんのマンションに同居し、『神の計画』と称するお告げで知子さんを完全に支配下に置いていきます。仕事からお金、私生活に至るまで思い

通りに操っています。今では、事務所はおろか、家族の言葉にさえまったく耳を貸さない状態になっているそうです」

そして、もうひとつ近年、中島を悩ませていたのが不倫問題だった。

中島が、二〇〇三年から付き合っていたイケメン俳優の谷原章介（38）と別れたのは、〇五年の初めごろ。

〇七年一月、その谷原は、いしだ壱成の元妻との子連れデキ婚を発表した。芸能記者が語る。

激太りの原因は...

陽水の夫人は歌手の石川セリ（58）だが、長く別居状態だという。

「中島は、若い頃の石川セリによく似てます。陽水は、ああいうバタ臭い顔が好きなんですよ。」

あるとき陽水は、離婚経験のある知り合いに、『慰謝料って、いくら取られる？』『裁判になったら、どのくらい揉めるの？』と、あれこれ聞いていました。どこまで本気だったかはわかりませんが……（同前）

石川セリの母は、娘と陽水の別居を認めた上で、こ

二人の出会いは、新幹線の中。靴を脱いでくつろいでいた陽水に、「靴を脱がないで下さい」と中島が注意したのがきっかけだったとか。その後、中島のラジオ番組に陽水が出演するなどして、親しくなっていた。

陽水には露悪的なところがあり、親しい相手には中島とのツーショット写真を

「別れたとはいえ、谷原の結婚が突然だったので、中島は相当なショックを受けたようです。そのせいかどうかはわかりませんが、ちょうど同じ時期、二十三歳も年上の妻帯者と不倫関係に陥ったのです。結婚願望が強いといわれる中島が、どうしてそんな交際を始めたのか……」

その相手とは、歌手の井上陽水（62）です。いっしょに六本木で飲んでるところを目撃されたこともありました」

だど、進まないときがあるんでね」

陽水「進まないといけないの？」

中島「進まないといけないですよ」

陽水（話を無視して）「それでね、僕の……」

中島「聞いてます、話を？ 聞いているの？（机を叩きながら）」

「私は福山雅治の内妻」「神様が肉を食べたいと言っています」など、奇怪な言動を繰り返す女にとらわれた中島は……

送ったりしていたという。

「バレちゃうかな、ってヒヤヒヤするのが好きみたいですね。〇七年の暮れ、陽水のテレビ番組に中島がゲストで出たのも、陽水のイタズラ心だったかもしれないね」（音楽関係者）

陽水とリリー・フランキーがホストを務めるその番組（井上陽水スペシャル

「別れたとはいえ、谷原の結婚が突然だったので、中島は相当なショックを受けたようです。そのせいかどうかはわかりませんが、ちょうど同じ時期、二十三歳も年上の妻帯者と不倫関係に陥ったのです。結婚願望が強いといわれる中島が、どうしてそんな交際を始めたのか……」

その相手とは、歌手の井上陽水（62）です。いっしょに六本木で飲んでるところを目撃されたこともありました」

う語った。

「子どもも三人いて、いまさら離婚はできないでしょう。娘は『そんなの（女性関係）は芸能界で防ぎようってましたよ。本妻の私が邪魔なら二号といればいいわよ、ってドンと構えている。子育てが終われば、犬じゃないから鎖でつないでおくわけにいかないからね」

陽水と中島の交際については知らなかったが、「オセロの美人の方？ エキゾチックな顔が好きだからね。面食いだから」

知人に「慰謝料っていくら？」

ツーショット写真を送る陽水



「この色を身につけなさい」とか、「何を食べなさい」といった日常生活へのアドバイス

白黒つけた中島と、グレーに遊ぶ陽水。その関係は、〇九年頃に終わりを告げたという(陽水には再三取材を申し込んだが回答は得られなかった)。

それに前後して、中島は霊能者を名乗る女Iへの依存を強めていったようだ。

Iを知る人物が語る。「Iさんは独身で、『本業は放送作家だ』と言っていました。『若い頃は歌の勉強をしていただけ、書くほうに才能があった』という、『これから撮影に立ち会おう』などと言っていたことがありますが、どんな番組に関わっていたかは知りません」

Iによると、神様が降りてきてIの口を借りて語るのだという。それに基づいて、Iは家相を観たり、除霊を行なう。鑑定料は三十分五千円が基本。また、

「この色を身につけなさい」とか、「何を食べなさい」といった日常生活へのアドバイス

「坂東三郎さんとか福山雅治さん、つくくさんとか、いろんな有名人と親しい、と話していました。彼女の話の聞いていると、とにかく、およそテレビに出ている有名人みんなと知り合いなんです。『昨夜は、ジャニーズの若い子たちと踊りに行ったのよ』と言ったこともあった」(同前)

「神様がお肉と言っています」

取り巻き何人かで食事に行った店のこと。Iが料理人に尋ねた。「腰が悪いんじゃないですか?」

「そうなんです」という答えを聞いたIは、「腰が悪いままにしておく」と、その分のお客さんしか来ませんよ」

その料理人が腰を治療すると、店に客が増え、Iに感謝したという。だが、そのやり取りを聞いていた人は、首をひねる。

先生の除霊をして、疲れちゃったわよ。目の前に三百万円積まれたの」と話したり、

「アメリカの有名芸能人に呼ばれているから、明日から行って来るわ」と言っ

て、しばらく姿を見せなくなることもあった。「ちょうど『オーラの泉』が話題になっていて時期で、『I先生もテレビに出たらどうですか?』と聞く」と、有名になるのはイヤ」という返事でした」(同前)

「腰痛を言い当てたときは、『さすがI先生!』と驚いたのですが、よく考えたら、一日中立ちっぱなしの料理人なら、誰でも腰痛なり肩こりを抱えているはず。こんなふうには、後から思い返すと、どうもハッターリくさい話がIには多かった」

Iの「被害者」と語るAさんは、次のように吐き捨てる。「あんな人は本当に珍しい。言っていることは全部ウソです。でもとにかく口がうま

くて、ほころびが見えるようなウソは決してつかない。一緒にいたときは本物の霊能者だと信じて疑いもありませんでしたが、はっきり言って天性の詐欺師ですよ」鑑定をしたお客に、多額の現金を要求したり、高価な物品などを売りつけたりはしない。家を覗いてもらったお札に百万円渡そうとした人がいたが、Iは十万円しか受け取らなかった。

「Iは、夕方になると取り巻きに『お腹空きましたねえ』と言いつつ、何を食べたらいいか、神様」に聞く」そして、おもむろに、「神様は『お肉』と言っています」と、御託宣を下すのだ。「Iの神様」は、いつも決まって肉を食べたがるんです。「肉を食べると元気が出るから」と言っていました。さらに神様は、〇〇ホテルの中のステーキ店や高級焼肉の××苑と、店まで指定する。そして、支払いは全部取り巻きに押しつけていました」(Bさん)

あるとき、持ち合わせが少なかった人が中華料理に連れて行ったところ、Iは食事中ずっと、「神様はお肉と言ったのに……」と、ブツブツつぶやいていた。Iの神様はまた、疲れたときは甘いものを食べたがるという。「中島もIに連れまわされてきました。それも『神様

のお告げ」と言われ、信じ込んでいたんです」(前出・中島の知人)

中島は激太りの理由を、〇九年六月三十日のブログでこう書いている。へただの食べ過ぎです。(略)実は半年くらい六本木のハイアットと自宅を行き来してまして、ホテルの飯がうますぎて、食べ過ぎました。その上断れない付き合いが多くて外食続きがたりまして。」

Iにたかられるまま、外食に付き合い続けた結果だろう。それはI自身も同じこと。身長はおよそ百六十センチでもと太っていたが、中島を食物に始めているから九十キロ近い体重になっているという。

中島がIと知り合ったのは〇五年ごろ。その後、中島は、自分が親しい芸能人をIに紹介してきたようだ。その一人とされるのが、サインティナインの岡村隆史(41)だ。「岡村も体調不良を理由に、昨年、休養していましたが、岡村がIを紹介された

のはやはり〇五年ごろで、当時、熊田曜子との密会が写真誌に撮られており、そうしたこと相談していたのではないでしょうか」(芸能ジャーナリスト)

中島の個人事務所にIの親族

〇九年四月から、Iと中島は渋谷区内の超高級マンションで同居を始めた。家賃は月七十五万円。このマンションは芸能人御用達で、中島が転居後に交際を報じられた今田耕司や福山雅治も住んでいるが、

「Iは周囲に『自分は福山雅治の内妻』だと語っていました。信じられないのは、中島もそれを信じ込んでいること」(同前)

福山の事務所は「初耳です。まったく関係ありません」と、予想した通り困惑を隠せない様子。

翌五月、中島の個人事務所がこの自宅の向かい側にあるマンションへ移転している。こちらの家賃は、月に

と回答する。「中島は日常の細々したことでまで、Iの指示を仰がずにはいられないようになっていたようです。そして、ついには自分のマンションにIを住まわせるようになりました」(前出・中島の知人)

四十二万円。名目は事務所だが、実態はIの母親と叔母、その長男が住みついた。中島のマンションを何度訪ねても、反応はまったくなかった。個人事務所、ことIの親族の住まいも同様だった。

大分県大分市のIの実家はかつて網元で、羽振りがよかったという。子ども時代のIは目立ちたがり屋で、「芸能界に憧れている。歌手になりたい」と夢を語っていたが、地元タウン誌を経て、フリーライターとなり、旅行情報誌などの仕事をした。その頃はSMAAPのファンで、逆に並べたPAMSというオフィス名を使っていた。

その後、上京したIは世田谷に住み、都内の編集プロダクションの名前が入った名刺を持ち歩いていた。「ほんの数カ月、バイトでいただけ。名刺は、自分で勝手に作ったんでしょ」(当時の関係者)

中島と知り合う前は、後を追って上京した母、叔母の三人で、麻布の狭くて汚いアパートに住んでいた。実家には現在、Iの祖母と、叔母の次男が住んでいる。祖母は、「私は何も知らない。(Iは)学校を卒業してから、ここにはおらん」と取り付く島もない。

近所の住民によると、「あそこの孫娘は何か事業を始めたけど失敗して、それで東京に行った。母親と叔母も、十年くらい前に東京へ行った。町内会の誰にも言わずに、姿を消したんだよ。叔母の長男が『東京へ行く』と言って出て行ったのは、去年の夏だ。

最近では高級なお菓子とか、何十万もするような家具や寝具をどんどん送ってきてるわ。代わりに、古い家

具をどんどん捨てている」霊能者を名乗るようになってからは「子どもの頃から霊能力があって、大人の相談に乗っていた」と吹聴しているIだが、大分時代の彼女を知る人々から、そんな話はまったく出ない。

〇三年、実家の土地の一部が、差し押さえにあって競売にかけられたが、〇九年九月、Iの母と叔母の次男が、現金で買い戻している。母の住所として記されているのは、中島の個人事務所だ。果たして高価な家具や土地代金の出所はどこなのか?

陽水、Iとの関係と中島の近況を、所属事務所の松竹芸能に尋ねたところ、「ご指摘頂いているような事実は承知しておりません。現在、検査及び加療を目的として入院しております。体調が回復して皆様にご元気で目見えできるような治療に専念したいと考えております」中島が一刻も早く目を覚まし、元気な姿を見せることを、小誌も願ってやまない。

次号7月22日(水)発売! 7月13日(水)発売! 1冊100円